

7月の短歌

渡邊麗加

- ① 足裏を崩れゆく砂は引き潮に
なりて闇夜の海となりゆく
- ② 夕日ゆづりと夕ゆづりのうらゆく波 砂の上
虹色のかげらの泡を残して
- ③ ひとところオレンジ色にたなびいて
夕雲より春の生まれんとする
- ④ 戦いに堕ちゆく地球に並びいて
夜空は惑星の輝きに満ち
- ⑤ 何もかもこの日本はもう間に合わぬと
帰国せし人の言葉静かに
- ⑥ 怒りつつその友の持つ不甲斐無さを
己に見つつ見送りにけり
- ⑦ うす闇が広がるごとく暮えゆきて
心折れたり小さき嘘に
- ⑧ ニラ ラッキョウ 玉ねぎ ニンニク つんつんと
みな細き葉を持つ春の庭
- ⑨ 目薬をきつへくはばばキョットと鳴いて
最後の滴が目に落ちにけり
- ⑩ 少年が脱ぎすてし青きジャージが
朝の光の玄関にあり